

講義名	スポーツ科学演習 A（レクリエーション/フットサル）				
担当教員	亀谷 涼				
開講期・曜日・時限	後期 火曜日 4 時限	授業形態	演習		
履修開始年次	1 年生	単位数	2	備考	
主題と概要					
平均寿命の高まりとともに、健康志向が強まっている。レクリエーション・スポーツ等の多くの種目を学ぶことで、スポーツの機会に触れ、生涯スポーツとして資することを目的とし、また将来にわたって健康に生きる力を身につけることを目的とする。そのためにも、ルールをしっかりと学び、自らの手で運営できるよう主体的に行動すること。さらには、生涯スポーツとして、男女問わず学生同士が楽しく参加できる機会をしっかりと考え、楽しさを覚えることでその種目を深く知るきっかけを作り出すことを目的とする。 本科目は、集団行動を伴うものであり、他者との意見の違いや立場の違いを理解し、協力して物事を進めると同時に、自らの役割を果たす必要がある。また、実践学習へ取り組みにあたり、自ら目標を設定し、達成できるようにできるようにする。そのためには、様々な情報を収集したり、周囲と協力をしたりすることなどが求められる。そして、生じた課題に対して、その原因を分析し、どのような手段を用いれば解決できるのかを考え、それに向けて行動できるようにする。					
到達目標					
1．「健康」獲得の方法を修得できるようになる。 2．様々なルール、基礎技術を理解し、説明できるようになる。 3．基礎技術を修得し、生涯にわたるスポーツ実践の礎とすることができるようになる。 * オンデマンドでの受講では、以上の到達目標を達成することが難しい。このため、対面授業とする。 ただし、新型コロナウイルス感染症の感染者、または、濃厚接触者に指定され、一時的に通学が禁止となった学生については、その期間のみ課題学習などによって対応する。					
提出課題					
前半科目について、実際に触れたことによる、生涯スポーツの視点からの振り返りを中間期のレポートに譲す。また、後半科目について、ボールフィーリングと戦術をすることでこの競技に対してどのよう にアドバンテージが得られるかについてのレポートを提出する。					
課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバック					
それぞれ課題に対して、授業で講評・解説等を行う。					
評価の基準					
授業実施時間数の4回以上欠席した者は単位を認定しない。 授業中の評価：授業態度・実技点など・・・・・・・・・80% 中間期の評価：レポート課題・・・・・・・・・10% 期末期の評価：レポート課題・・・・・・・・・10% 新型コロナウイルス感染症対策として、全ての授業がオンラインに変更された場合については、その時に詳細を伝える					
履修にあたっての注意・助言他					
対面授業をともに授業計画を進行するため、実技を伴う活動が求められる。実技を通して、各自が課題をみつけ向上していくことを基本とする。よって、この授業において求められることは、「健康」の獲得と実技を通して「スポーツの礎」とすることである。それらを実践するための体調を整え、向上していく姿勢が求められる。 授業内容に沿って、適切な服装・運動靴で参加すること。 生涯スポーツとして、運動する楽しさを多くの仲間と共に感じできる心構えを持つこと。 天候により、内容を変更する可能性がある。 ネックレス、ピアス等アクセサリは授業前に外しておくこと。 授業前・後は必ずマスクを着用することとし、授業中については教員の指示に従うこと。					

教科書				
.使用しない。				
プリント資料及び参考文献				
授業内容により、適宜プリントを配布する				
授業計画				
1	ガイダンスとレクリエーションの歴史と普及			
2	サッカー（パスティング・守備練習）			
3	サッカー（試合形式の練習）			
4	サッカー（試合）			
5	キックベースボール（キックの種類と守備練習）			
6	キックベースボール（試合形式での練習）			
7	キックベースボール（試合）			
8	フットサルの歴史と発展			
9	フットサル 基礎技術（ドリブル・パス）			
10	フットサル 基礎技術（トラップ・シュート）			
11	フットサル グループ戦術（2対1）			
12	フットサル グループ戦術（2対2）			
13	フットサル リーグ戦			
14	フットサル リーグ戦			
15	まとめ			
新型コロナウイルスの状況により、接触の恐れのある練習内容については実施できないこともある。その場合については、到達目標を優先するため内容を変更することがある。				
授業形態（アクティブ・ラーニング）				
	ア：PBL（課題解決型学習）		イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）	
	ウ：ディスカッション、ディベート		エ：グループワーク	
	オ：プレゼンテーション	○	カ：実習、フィールドワーク	
	キ：その他（A-L型であるけれども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）			
準備学習（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間				
事前に実施する科目について内容を把握し、ルール・競技方法を理解したうえで出席すること 復習することで知識を深め、興味関心を高めること 生涯スポーツについての知識の習得48時間 サッカーについてのルール・歴史・基礎技術についての事前学習148時間 キックベースについてのルール・歴史・基礎技術についての事前学習148時間 フットサルについてのルール・歴史・基礎技術についての事前学習28時間				
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連				
本科目を受講し、目標を達成することで、本学の学生が卒業時に共通して身につけておくべき資質・能力の5項目および、健康スポーツ科学のカリキュラムポリシーへ貢献することができる。 集団や個人でスポーツ実践に取り組む中で、明るく元気で、どのような場所でも物怖じすることなく、誰とでもしっかりと言葉を交わすことができ、逆境でもたくましく生き抜く力、つまり「本アカ のびのび へこたえず」の精神を育むことができる。また、問題点やその要因を把握し、自らが進んで取り組めるようになる。そして、他者に働きかけ、協力して課題へ取り組むことにより、円滑なコミュニケーションをとることができるようになる。 生涯にわたってスポーツと関わったり、健康の維持・増進に努めたりすることができるような知識を得て、理解することができる。 以上は、全学部・学科の所属学生へ共通している。				
双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述				
本科目については対面授業のため、実技を中心とした授業展開となる。ただし、新型コロナウイルス感染症対策として、全ての授業がオンラインに変更された場合については、オンラインによって授業を実施することになるので留意すること				
実務経験の有無及び活用				
備考				